

緩山河

第29号

平成28年5月15日

発行

公益社団法人沼津牧水会

目次

松を枯らしてはならない	2
牧水生誕 130年記念事業	
特別企画展	10
牧水の書への視点	12
日向市「牧水を旅する」	
「日本ほろよい学会」	16
東京牧水会	
「百草園 歌碑祭」	22
岡山県新見市	
「牧水顕彰全国大会」	24
第62回 沼津牧水祭	
短歌大会	30
碑前祭・芝酒盛	31
第28回 雛の歌会	32
文化講座	33
サロン音楽の夕べ	34
平成27年度事業報告	35
定款・編集後記	36



松を枯らしてはならない

～「築山」造成が千本浜と沼津港を結ぶ

遊歩道の整備につながることをねがう～

沼津市は、一昨年（平成二六年）八月、千本松原の一角に、松を一五〇本以上も伐採して、標高一四メートルの津波避難用の「築山」を造成することを発表しました。千本松原をこよなく愛し、千本松原を守った若山牧水の心情に呼応して集った組織である沼津牧水会は、「千本松原の松を伐採してはならない」と強く要望しつづけました。

静岡県の第四次「津波ハザードマップ」によれば、千本浜海岸の想定最大津波高は海拔五メートルで、防潮堤は海拔九メートル以上あります。津波が防潮堤を乗り越えるという「想定外の想定」を想定して、標高一四メートルもの津波避難用の「築山」を造成しようとする沼津市の計画に疑問を投げつけました。市長をはじめ担当部署に、「築山」に代わる津波避難の方途案をいくつか提示しましたが、沼津市は標高一四メートルの「築山」の造成に固執しつづけ、昨年四月、三本の太い松の根回しをし、「松を一本も伐らない。松を枯らさない」と宣して昨年一〇月、築山の造成に着手しました。

根回しをした太い松の移植が可能かどうかを判断できるまでには三年を要すると言われています。本年二月二八日に樹木医に診断してもらったところ、三本の太い松の発根状態は、二〇％程度で、移植できるかどうかは、二年以上様子を見ないと分からないということでした。三本の太い松を避けた形状で強引に着手した「築山」が、このほど完成し、四月

六日から供用が開始されました。

田子の浦港の浚渫土をセメントで固めた超重量級の「築山」によって、山裾に近接する松は、根が圧迫され、生長が阻害され、枯死する危惧があります。「築山」の斜度が三〇度以上と大きいため、「築山」を覆う三〇センチの表土は、豪雨によって落土し、近接している松の根元を覆う可能性もあります。

「築山」の形状は、低木の植栽さえも不可能な山で、自然との共生を希った牧水の愛した千本松原の一角には相応しくなく、千本松原を愛する私たちにとって受け入れ難いものです。

松が枯死したら、松を伐採したことと何ら変わりありません。「松を一本も伐らない。松を枯らさない」との沼津市の約束が遵守されるであろうことを注視していくつもりです。

ところで、「津波ハザードマップ」によれば、沼津市が津波避難対策として取り組まねばならない地域は他にあります。また、津波対策のほかの防災対策を忘れてはなりません。

何はともあれ、「築山」は造成されました。この「築山」は、危険をはらんだ施設です。供用に当たっては、安全に十二分に配慮することを望みます。

「築山」造成が、千本浜と沼津港を結ぶ「千本浜 若山牧水記念館 港口公園 沼津港」の防潮堤遊歩道である「潮の音プロムナード」の整備につながってほしいとねがいます。

（林 茂樹）

築山工事10月再開へ

牧水会が抗議の記者会見

沼津牧水会の林茂樹理事長は二十五日、千本郷林の若山牧水記念館で記者会見し、写真、中断している千本松原内への津波避難用人口高台「築山」建設工事について、十月一日に再開する」と市が地元自治会に通知したのを受け、問題は何も解決していないと抗議するとともに、クロマツを守るために築山標高を一五メートル以上にしよう求めた。

林理事長は、戦国時代に荒れた千本松原は増殖上人の植栽によって再生が始まり、千本松原を愛し沼津に終の棲家求めた牧水が真のクロマツ伐採計画に反対し守られてきたことを説明。今年四月、移植のために根回したクロマツ三本の発根状況を確認しないままの工事再開を疑問視した。



林理事長は、戦国時代に荒れた千本松原は増殖上人の植栽によって再生が始まり、千本松原を愛し沼津に終の棲家求めた牧水が真のクロマツ伐採計画に反対し守られてきたことを説明。今年四月、移植のために根回したクロマツ三本の発根状況を確認しないままの工事再開を疑問視した。

さらに、予定地の地盤標高は六メートルで、津波による想定浸水深五・五メートルに対して防潮堤が八メートルあり、「津波が襲う想定はない」と指摘。

工事再開を知って二十一日に牧水会理事会を開き、一委任状を含む十五人の理事と監事全員が「市が計画する築山標高一五メートルは容認できない」とを確約したという。

この決定を受けて二十四日朝、市長宛てに嘆願書を出し、市長宛てに嘆願書を出し、クロマツを一本も切らずに築山を造成することは英断だと評する反面、田子の浦港の浚渫土をコンクリートで固めた超重量級の築山によって山裾から三メートル以内にあるクロマツの根が圧迫によって将来的に枯死する心配を訴えた。

また、築山を覆う三〇

センチメートルの表土が、近年度々起る豪雨によって流出し、近接のクロマツの根元に堆積し呼吸を妨げる悪影響を与える可能性があり、さらに、浚渫土にはダイオキシンが含有されていることは周知のことだとし、危険物質が雨によって溶出し生長を阻害することを危惧。

築山の形状は、低木の植栽さえも不可能なセメントで固めた山で、自然との共生を希望した牧水が愛した千本松原には、さわしくなく、千本松原を愛する者にとって受け入れがたい、と結論付けた。

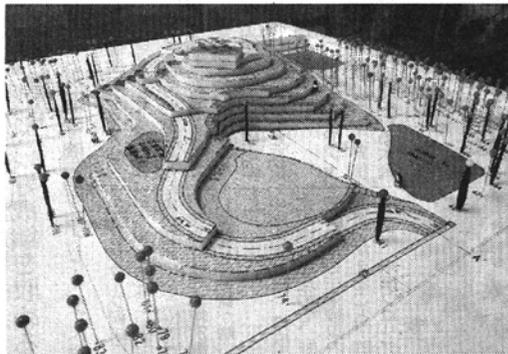
嘆願書に対し市は同日夕、栗原裕康市長名で回答書をお届け、「高尾山古墳の例を見るまでもなく、市民間には対立する意見が常に存在していたし、

古墳保存と道路建設を両立させるための検討会で参加委員が指摘されたとおり、お互い八〇％の出来で満足するよう合意形成を図るべきで、どちらかが自分の主張を一〇〇％達成しようとするのは、話はまだまらない」と、話はまだまらないとのことは、この築山造成にも当てはまると考えます」となど応じた。

記者会見では、市が同会に提出した計画平面図を基に作った立体模型を同会理事で建築士の河辺龍二さんが持参。

河辺さんは模型を使い、造成によって枯れる危険性があるクロマツを赤と黄、緑に色分けして説明して、「牧水が守った松を、さらに我々が守る」との決意を示し、「枯らすことは、切る」と何ら変わりなく、

釘を刺した。また、やはり建築士の鈴木弘行監事は「セメント固化はダイオキシンを含んだ浚渫土の最終処分として実施するもので、それを築山に持つてくるのは疑問」だとした。林理事長は回答文にある「八〇％」に対し、全く合意形成などされていないことを指摘するとともに、「回答文には、我々の疑問に対するものは一切ない。誠実さが見られない」と批判した。



市の平面図を基に会員が製作した築山立体模型。右上が海

同会が築山標高を一メートルとする根拠は、一昨年の二月十九日、市長が全国市長会で「地域力を活かした防災体制の構築」沼津市の地震・津波対策」と題した講演で、そこには「普段はお子さんが遊んだりお年寄りが遊べるような広場にして、いざという時に逃げ込みめるような築山。大体標高一メートルくらい、海抜一メートルくらいもの造って、いざという風に思っています」とある。

市長は、この発言に關し、「私の講話は、この築山計画の構想段階（アイデアのみ）の話でありますので、ご承知おき頂きたいと存じます」と回答文に記している。

切ない。誠実さが見られない」と批判した。同会が築山標高を一メートルとする根拠は、一昨年の二月十九日、市長が全国市長会で「地域力を活かした防災体制の構築」沼津市の地震・津波対策」と題した講演で、そこには「普段はお子さんが遊んだりお年寄りが遊べるような広場にして、いざという時に逃げ込みめるような築山。大体標高一メートルくらい、海抜一メートルくらいもの造って、いざという風に思っています」とある。

言いどい ほろが

斜面が多く、表土の厚さはわずか三〇センチ。しかも地山(じやま)はセメント系の強化剤混入により不透水層になると思われるので、雨水による流出は必至である。

植もしくは移植調査作業時、土壌下の掘削による危険度「大」と指摘されている。

細資料(*)によれば、平成十三年度、沼津市発行の旧マップでも、泉資料と同じく危険度「大」になっているので、現

状の境界面すべりによる崩壊の危険：地山本体はマップの意味するところ「孤高の松」をばじめ多くの松が、「あの築山」によって、根方を圧迫されることになり、徐々に活力を奪われ、枯死するおそれがある。

沼津市は、千本常盤町の「あの築山」造成工事に十月初めに着手しました。私も沼津牧水会理事会はこの時点で着手することに、全会一致で強く反対しました。松の木も存続もとのことながら、計画変更の紆余曲折の中で、「あの築山」が以下に述べるような危険なものになってしまっ

とを危惧したためでもあります。危険を承知の上で、あえて強行する沼津市の姿勢に、「あの築山」自身の危険以上の「危うさ」を感じるのは、私だけでしょうか。

1、芝貼表土流出の危険：三〇度を超える急

2、仮設土囊崩落の危険：今春根回しをした三本の松(「孤高の松」と「夫婦の松」)の発根状況は大きなものと思えない。地中に埋めた構造物は、当然危険度「大」であるべきであろう。この

多くの市民は、適切な対応が取られてこれらの危険がすべて杞憂に終わってほしいことを願っていると思います。しかし、この危険の中には、何十年、何百年に一度起こるかどうかわからないものも含まれています。このまま進行すれば、誰もが安堵の胸を撫で下ろすことなど、できないでしょう。すべてには起るかどうかわからない危険に対処するのが、「危機管理課」の使命であろうことを考えると、この危険を生み出しているかに見える「あの築山」の築造は、実に罪が深いと言わざるを得ません。

「あの築山」は危険がいっぱい 河辺龍二郎

森が六段の高さまで、七れただけなので、拘束さ

〇度近くで積み上げられる条件はない。巨大地震の大きな水平力が加わることになっている。地盤強化剤により、山は地盤強化剤により、ある程度固形化すると

思われるが、ピニール製の土囊は地山に寄りかかっているだけで、一体化はされない。ちょっと化はされない。ちょっと

5、細砂地盤の液状化危険な遊び場所となる：子ども達は危険な場所が好きである。命にかかわるような大げなをしてか

6、子ども達にとつて危険な遊び場所となる：子ども達は危険な場所が好きである。命にかかわるような大げなをしてか

1、芝貼表土流出の危険：三〇度を超える急

3、「孤高の松」の移

7、松が枯死する危

代表・沼津牧水会理事

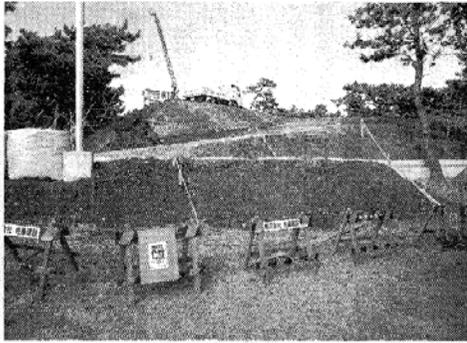
(詳建築研究所沼津

築山造成盛り土作業進む

来月、松の発根状況を確認

市議会総務経済委員会が十日に開かれ、常盤町地先の千本松原で進められている津波避難用人工高台、いわゆる築山の整備進捗状況が報告された。

この工事では、当初請（しゅんせつ）土砂総重量が約七二〇〇立方メートル、約七二〇〇立方メートル、ち約四、九〇〇立方メートル、改めて三千七百八十万円で新たな業者と請負契約を結び、来年二月三日までの完成を目指し、盛り土と客土の搬入、成形などが行われている。



盛り土の造成と成形が進む築山＝築山南側から望む

十二月一日現在、盛り土は田子ノ浦港の浅瀬

（ここ）まで盛り土の高さは防風林地面から四五メートル、海抜一〇メートル、来年一月に盛り土と客土工事

を終了した後、築山への階段、スロープなどを設置し、斜面を整張り、さらに同月下旬、樹木



積み上げられた土のう＝ときわ保育所から撮影

医と造園業者により移植予定のクロマツ三本の発根状況確認作業が予定されている。

江本委員は、現在のクロマツ三本の樹勢と葉の色を見れば、ある程度の生育状況が分かるのではないかと改めて尋ね、塩崎課長は、移植可能なとした樹木医の判断で根回ししたこと、十一月二十日に行った樹木医による目視診断は問題ないとされたことを述べた。



築山の全貌＝中部浄化センター屋上から撮影

委員（未来の風）は、前回の委員会でも指摘した盛り土と客土の固着安定を懸念。降雨による客土の滑落の有無を尋ねたのに対して、塩崎遊池機管理課長は「滑落は発生していない」と答弁。

また、江本委員は、一月に予定されている発根状況調査で毛細根が生長していない場合の対応を質問。

報告に対して江本浩三

塩崎課長は「生長が芳しくない時には、（調査に当たる）樹木医と造園業者に相談しなうで対策を考える」と答えた。

クロマツの発根状況調べる

築山造成に伴う移植前の根回しで

市危機管理課は二十八日、津波避難用人工高台「築山」造成に伴い移植予定のクロマツ三本の発根状況を調査。状況を調べた磐田市の樹木医、正木伸之さんによると、この三本は樹齢一〇〇―一五〇年と推定され、高齢期にあるため、いずれも発根状況は芳しくなく、特に二本は「お察し限」だと言う。

樹齢古く伸びに勢いなく

判断には2年の経過が必要

築山造成工に先立つ昨年三月十七日、同課では、この三本の根の状況調査を行い、四月十三日、木の安定を保つため放射状に張った多くの太い根のうち、数本の皮を環状に剥がして新たな根の出る「根回り」を暴露。この作業から九か月半が経過して、今回、今回の発根状況確認調査となった。

調査は、クロマツの周囲半徑一・二メートルの田圃十五カ所を掘り下げて「回復している」と説明。

築山造成工に先立つ昨年三月十七日、同課では、この三本の根の状況調査を行い、四月十三日、木の安定を保つため放射状に張った多くの太い根のうち、数本の皮を環状に剥がして新たな根の出る「根回り」を暴露。この作業から九か月半が経過して、今回、今回の発根状況確認調査となった。

また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

また、「細い根を切った」とは、新しい根が伸びてくるのを待つ必要がある。また、東側の一本については「発根状況は期待度の一〇―二〇%」だとし、三本は、いずれも盛りを過ぎた木なので根の伸びに勢いがないことを付け加えた。

今頃、また癒ってみたいとした。この後、参加者は形を現した築山の上面に上がり、塩崎遊危機管理課長から今後のスケジュールを聞いた。頂上までの避難路はカラーアスファルトで舗装し、転落防止用の手すりを設置。頂上は発根チェックを混ぜたペーパーラジック(再生木材)のデッキを設ける。築山の表面には芝を張り詰め、三月いっぱい完成させようという。

この説明で築山の上面には樹木が植えられず、芝生張りだ。知った正木さんは、冬季に津波が起きた場合、吹きさらしで避難者は寒さに耐えられず、築山は避難場所には適さない、と指摘したが、眺望重視のため、市には避難物となる樹木の植栽計画はない。

市の築山造成に対して市の伐採に反対してきた沼津救水会は、会員で一級建築士が行った強度計算を基に築山計画地北隣に建つ市立とまわ保育所の屋上を改修し避難場所にするよう提案したが、一顧だにされなかった。だが、今回の発根状況調査時、保育所の屋上には五百万円をかけた湧水防止工事が行われていた。

この提案をしたうちの一人、鈴木哲之さんは「樹齢百年から百五十年という高齢の松なので、これから移植しても平均寿命は五十年か、せいよそのままだよ。かんのがいいんじゃないか。築山を造ること自体、無理な話。自然の中に物を造る時は植物など周囲を配慮すべきだ」と話した。

この提案をしたうちの一人、鈴木哲之さんは「樹齢百年から百五十年という高齢の松なので、これから移植しても平均寿命は五十年か、せいよそのままだよ。かんのがいいんじゃないか。築山を造ること自体、無理な話。自然の中に物を造る時は植物など周囲を配慮すべきだ」と話した。

この提案をしたうちの一人、鈴木哲之さんは「樹齢百年から百五十年という高齢の松なので、これから移植しても平均寿命は五十年か、せいよそのままだよ。かんのがいいんじゃないか。築山を造ること自体、無理な話。自然の中に物を造る時は植物など周囲を配慮すべきだ」と話した。



新たに伸びた1本が確認された根



3本のクロマツを避けて積まれた土のう



調査対象の松の周りで樹木医から説明を受ける参加者

根回した根からの新しい根の発根状況を調べる樹木医の正木伸之さん―沼津市本の築山造成現場で



沼津・津波避難「築山」造成 松移植に2年必要

沼津市による津波避難 茂樹理事長などが反対
難のための「築山」造成 対運動を展開したた
成に伴い、移植を予定 根が出ていなかった。
している松の根の発根 針を断塊、樹齢100 調査結果について、
調査が28日、同市本の 針を断塊、樹齢100 林理事長は「根回しか
5150年の3本につ いては、移植に先立ち、 らまだ1年たっていない
調査が28日、同市本の 5150年の3本につ いては、移植に先立ち、 見極めに3年はか
り地であった。磐田市 いては、移植に先立ち、 かる」とされていたので
の樹木医、正木伸之さ 昨年4月に根の表皮を 予想通り」と述べた。

樹木医が発根診断

なぐともあと2年は必 促す根回しをした。 築山造成は3本の松
要」と診断し、市の担 促す根回しをした。 築山造成は3本の松
当者に伝えた。 この日は地面を掘り 避ける形で始まって
沼津市は2014 新たな根の発根状況を おり、海拔14層の築山
年、千本松原南端に築 ると、1本は順調に根 は3月中旬の完成予定。
山を造成すると発表。 が発育していたが、そ 来年度に築山の上に高
当初150本の松を伐 れでも移植に必要な発 ざ1層の展望台を建築
採する計画だった。し 根状態を100とする けとする。
かし、沼津牧水会（林 と20程度といひ、病氣

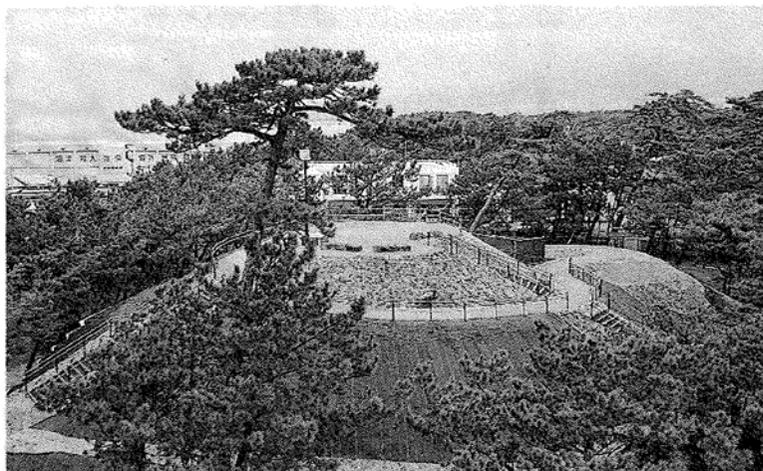
【石川宏】



3月に完成する築山の造成現場。手前の3本の松が移植の対象―沼津市本で

津波に備え「築山」ほぼ完成

整備された人工の高台「築山」。築山の奥に沼津市立ときわ保育所がある。沼津市本



沼津の人工の高台 松林にも配慮
保育所の15人が「登り初め」

沼津市が南海トラフ地震による津波の避難用に整備を進める人工の高台「築山」が一部を除いておおむね完成した。5日は隣接する沼津市本の市立ときわ保育所のこども15人が「登り初め」を行い、駿河湾を望む築山の頂上に登った。6日から供用が始まる。

市によると、築山は標高約14メートル。市有地約4200平方メートルに2014、15両年度に約5千万円かけて造成した。山頂部までの登り口は3カ所で、スロープや階段を利用する。頂上には収納式ベンチも設置。避難時の簡易トイレや毛布を備蓄する予定だという。

県が13年11月にまとめた第4次地震被害想定では、地震発生から15〜20分で築山の周辺は約1メートル浸水することが判明。市はこもらの避難先として、14年6月

に標高約15メートルの築山を整備する計画を公表した。

しかし、計画には松の木150本の伐採が含まれていたため、晩年を沼津市で過ごした歌人の若山牧水にゆかりのある市民らが反対。松林は1926年に県が伐採を計画した際、牧水らが反対して守った大切な松だという市民の主張を受け入れ、市は松の木を切らずに築山を整備するよう方針を転換した。

予定地にかかっていた松の木6本は移植。大きな3本は移植準備のため、根回しを進めている。樹木医からは最低2年は待つよう勧められているという。

牧水生誕一三〇年記念事業

特別企画展 牧水をかく

榎倉香邨と成田真洞

若山牧水生誕一三〇年の記念事業として、特別企画展「牧水をかく」榎倉香邨と成田真洞「」を平成二十七年九月十九日から十一月二十九日まで開催した。

若山牧水を愛し、牧水をテーマとする作品を発表しつづけておられる仮名書道界の泰斗・榎倉香邨先生が、平成二〇年に沼津市に寄贈された六曲屏風「千本松のふじ」を中心に、今回の企画展のために揮毫された牧水の「恋のうた」と「酒のうた」の額装二点と軸装「山櫻のうた」の合計四点、及び、当記念館の書道講座の講師・成田真洞先生の牧水短歌の額装七点を展示した。

九月十九日（土）午前十時三十分、林茂樹本会理事長の挨拶につづき、榎倉香邨先生、成田真洞先生、榎本篁子当記念館館長と林理事長によるテープカットでオープニングとなった。

つづいて、榎倉先生、成田先生、榎本館長

による「牧水のうた」と題する鼎談ていだんが催され、「牧水のうた」についての想いが語られた。展示会場のラウンジいっぱいとなった百十四名の参加者は熱心に耳を傾けた。

十月十一日（日）には、成田真洞先生による「牧水の書の魅力」と題する文化講座が催された。参加者は五十二名。

また、十一月十五日（日）には、成田真洞先生による「牧水の書の特徴をとらえて書いてみよう」と題するワークショップが催された。参加者は四十三名。今回の「特別企画展」への参加者は、合計千五百人であった。

この企画展に展示した作品のうち、榎倉先生からご寄贈いただいた額装「恋のうた 四首」と「酒のうた 二首」及び成田先生からご寄贈いただいた額装「青柳に蝙蝠あそぶ…」の作品を当記念館ラウンジに展示してある。

企画展の展示風景と全作品の写真集としての「図録」は好評で販売中、頒価二百円。



榎倉香邨先生は、牧水短歌について次のように語っている。

何のためらいもなく、スト

レートに詠い上げる牧水の歌は、日本人である前に、人間としての美しい叫びでなかったのか。日本人には雅という非の打ち所のない、美しい世界がある。しかし、日本には雅の外にも、それと匹敵するくらい美しいものがある筈だと主張して来た私には、牧水の自然のままを素直に詠う歌の数々に接した時、血のわく思いの高まるのを覚えた。

榎倉先生の揮毫された牧水短歌を紹介する。

「恋のうた」四首（額装）

おもひみよ青海なせるさびしさに
つつまれるつつ恋ひ燃ゆる身を
真昼日のひかり青きに燃えさかる
炎か哀しわが若き燃ゆ
ああ接吻海そのままに日は行かず
鳥翔ひながら死せ果てよいま

くちづけは永かりしかなあめつち
にかへり来てまた黒髪を見る

「酒のうた」二首（額装）

酒ほしきまぎらはすとして庭に出て
つ庭草をぬくこの庭草を
岸の葉の茂みが上に登りゐてこれ
の小蟹はものたべてをり

「山櫻のうた」一首（軸装）

うすべにに葉はいちはやく萌えい
でて咲かむとすなり山櫻花

「千本松のふじ」六首（屏風）

天地の心あらはにあらはれてかゝ
やけるかも富士の高嶺は
雲迷ふ梅雨明空のいぶせきに暁ば
かり富士は見らるゝ
まがなしき春の霞に富士が嶺の峰
なる雪はいよゝかがやく
寄りきたりうすれて消ゆる水無月
の雲たえまなし富士の山辺に
見る見るに形を變ふる冬くもを抜
きいでゝ高き富士の白妙
登り来て此処ゆのぞめば汝がすむ
東の方に富士のみね見ゆ



牧水の書への視点

成田真洞

昨秋、二ヶ月余にわたって開催された「牧水生誕一三〇年記念特別企画展」牧水をか「く」が、十一月二十九日に無事閉幕しました。この「特別企画展」を振り返って私なりに総括してみたいと思います。

私にとつての何よりの収穫は、一つに、わが国の仮名書道界の重鎮である満九十二歳になられる榎倉香郵先生の警咳に接し得たこと、二つに、伝統的な仮名書法による「かなの美しさ」を表した榎倉先生の書と、いわゆる現代の「漢字かな交じり書」による拙作とのコラボレーションとなったこの「二人展」を、多くの方々に鑑賞していただき、いろいろな感想や意見を拝聴できたことです。

この「二人展」のうち、私の作品について一言申し述べます。

いつでも私の深い所にある大切な歌二首「けふもまた心の鉦をうち鳴らしうち鳴らしつつあくがれてゆく」「この歩み止めなばわれの寂寥の裂けて真赤き血や流るらむ」と、

懐かしい「石ころを蹴り蹴りありく秋の街落日黄なり酔醒の眼に」、沼津牧水会所蔵の盃を詠んだ歌「青柳に蝙蝠あそぶ絵模様様の藍深きかもこの盃に」。そして、酒の歌三首「佛法僧仏法僧と啼く鳥の声をまねつつ飲める酒かも」「妻が眼を盗みて飲める酒なれば惶て飲み噎せ鼻ゆこぼしつ」「うらかなしはした女にさへ気をおきて盗み飲む酒とわがなりにけり」の七首を書かせていただきました。

大げさに言えば、「現代の書のあるべき姿」を常に考えているわけですが、少なくとも現行の展覧会主義の詩文書の一部に見られる大仰な、わざとらしい表現のし方には大きな疑問をもっているのです。特に、他の人の格調の高い詩歌や文を借りて表現するときは、私は、あくまでも自分の美に対する志向を保持しながら、銜いなく表現することが大切だと思っています。今回も、いい機会ですから、なるべく歌の意を汲みつつ、歌の品位を損なわないような表現を見ていただけるように努めました。



この「特別企画展」には、企画展示のほか
にイベントとして三つの企画がありました。

一、榎倉香邨、成田真洞、榎本篁子館長に
よる「鼎談〜牧水のうた〜」

鼎談が始まる前のほんのひととき、榎倉香
邨先生と雑談できる機会があり、榎倉先生は
若い頃、晶子にするか牧水にするかで大いに
迷い、ついには牧水の方を生涯の仕事に決め
たのだという、極めて貴重なお話を伺うこと
ができました。

鼎談での榎倉先生のお話からも、牧水の跡
をご自分の足でつぶさに訪ねておられること
等から、先生がいかに牧水に傾倒され、憧憬
の念を強くもたれていたかその情熱の凄さを
感じました。牧水の歌のみならず全人格に惚
れ込んだ榎倉先生の姿がすぐ眼前にあり、そ
れが背景となって、あの作品ができているの
だと、「書」に向かつていく姿勢に深い感動
を覚えました。

鼎談の中で、榎倉先生より、思いもかけな
い批評の言葉をいただきました。それは私の
作品に対する「日本の書の本来のありかた
だ」というものでした。このことは書を考え
る上でのさらなる確信となり、また私の心の
大きな財産となりました。



二、文化講座「牧水の書の魅力」

牧水の書として一般的に最も知られているのは「幾山河・・・」の軸でしょうか。

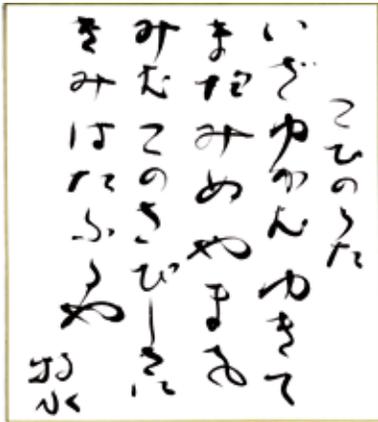
しかし、この作品は高校の教科書にも載るほど整った完成度の高いものですが、全国を揮毫行脚して残された数多くの作品には、決してそのような優等生的なものばかりではなく、むしろ個性的で多彩な面の面白さがあります。

私は今回、沼津牧水会所蔵の九十数点の中から四十点を選び、私がつけている若干の写真資料を加えプロジェクターによる映像を通しての解説を試みました。

珍しい延岡高等小学校三年（十四歳）の習字（漢字二字熟語の行書）の練習帖から始め、大正五〜八年の三十歳代中頃までの作品（文字や落款が比較的小さく、漢字とかなの大きさに差のない短冊や条幅など）、その後、六〜七年の間で書が大きく変わり、いわゆる牧水らしさが見えてくる時期の作品（手紙、扇面、色紙、半切、全紙等の諸作品。子規の運筆論の影響とも見られる大きく右回転する字形、墨継ぎ、漢字と仮名のバランスの妙、大きな落款など）。大正九年に沼津に引越して来た頃の、相当に書き慣れた堂々とした書きぶり

がこの時期にあたります。そして、大正十四年から始まった大々的な揮毫旅行（ご本人は難行苦行の旅といっています）によって生まれる作品の数々。特に目を見張るほどの傑作は、昭和二年までの間に書かれています。これらの書跡の推移の様相は、映像を通して也十分伝えられたのではないかと思います。

「牧水の書の魅力を通して最も伝えられたこと、それは、牧水らしい独特のあの書風がどのようにして生まれたか、ということだと思います。牧水が大学生になって短歌の師としたのが歌人であるとともに書家である尾上柴舟（後の日展審査員、芸術院会員）です。短歌と書道と分野は違うとは言え、柴舟から書の影響を全く受けずに独自の道を歩いたということに驚きます。



三、ワークショップ「牧水の書の特徴を とらえて書いてみよう」

まさに看板に掲げられた「牧水をかく」そのものを実践してみようというのが主旨です。通常、牧水を書くと言うと、牧水の歌を書き作品の題材として創作（自運）することを言いますが、今回は敢えて牧水の書そのものを「臨書」してみようと思いました。

臨書という言葉が適当かどうかはともかくとして、私が今回題材として取り上げたのは、牧水の書の特徴がよく表れていて、しかも毛筆に不可欠な基本的な要素を豊富に含んでいることから、すべてひらがなで書かれている色紙「こひのうた いざゆかむゆきてまだみぬやまをみむこのさびしさにきみはたふるや」でした。

当日は、見学者も含めて多くの参加者がありましたが、会場の関係で、あらかじめ予約していた二十二名を四グループに分けて行いました。

ワークショップが通常の講習会と異なるところは、指導者からの一方的なスキルの伝達ではなく、参加者が双方向に刺激しあい、問題を解決していくというトレーニングの場であると云えます。勿論、進行係でもある私が

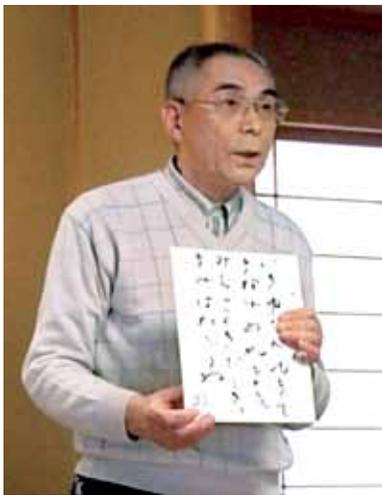
適宜助言しました。

具体的な方法は、グループごとに次の中からどれを書くかを決めます。

「いざゆかむ」「ゆきてまだみぬ」「やまをみむ」「このさびしさに」「きみはたふるや」

短文に区切ったのは、筆の開閉（細い線から太い線への急変）、普段とは違う字形のゆがみや運筆のリズムの失調に至るまで、その特徴の観察が必要なこと、そして時間的にも制限があったからです。

参加者は、初めは容易に思っていたらしく、意外と大変なことに気づき苦心していましたが、最後まで楽しく出来たようでした。途中、見学者の中から腕に覚えのある人の飛び入りがあったりして和やかなうちにも、全員の作品の鑑賞会で締めくくりました。



「第13回 日本ほろよい学会」日向大会 「牧水生誕二三〇年記念事業「牧水を旅する」に参加

平成二十七年六月二十七日朝、自宅から歩いて三島駅北口へ。七時少し前に着いたため、駅前のドトールコーヒーショップが未だやっていない。仕方なしに新幹線ホームの売店で朝食を購入。そんなことをしているうちに、沼津から東海道線で来られた林理事たちと合流。新幹線で東京へ向かう。

宮崎県日向市で、若山牧水生誕百三十年記念事業として、「牧水を旅する」と題するトークショーと朗読オペラが開催され、夜は、日向市と延岡市の牧水顕彰会の主催で、第十三回「日本ほろよい学会」が催された。

この記念事業に、林茂樹理事長、浅井治、金子安夫、長澤靖夫の各理事、鈴木玲子、原悦子、三宅芳則、山下数高の会員四氏、事務局の大島葉子の九名が参加した。

最近の沼津牧水会のツアー企画で恒例となっているが、長澤理事に行程を組んでいた。飛行機嫌いの林理事長を説き伏せて、飛行機での往復となった。

羽田空港から空路宮崎へ。宮崎は生憎の雨。宮崎空港から日豊線で日向市まで。昼食は日

豊線の車中でいただいたが、駅弁ならぬ空弁。「椎茸 鳥そぼろ弁当」、宮崎の特産品が入っている弁当である。毎回感激するのだが、長澤理事のチョイスする食事はともかく美味しい。しっかりと味わいながらいただいた。

記念事業は、日向市中央公民館で午後二時から開会。開会前のほんの少しの時間に、様々な方と久しぶりの再会のご挨拶をする。黒木健二日向市長、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長、稲用博美宮崎県副知事のご挨拶につき、朗読オペラの台本を書いた猿ヶ京ホテル女将の持谷靖子、作曲者の仙道作三、ヴァイオリニストの古澤巖、若山牧水記念文学館館長の伊藤一彦の四氏による「旅とふるさと」をテーマとするトークショーが催された。つづいて、朗読オペラ「若山牧水みなかみ紀行〜わたしは鳥〜」が演ぜられた。ミーハーな私は、古澤巖さんのヴァイオリンを聴くことを楽しみにしていたが、オペラも楽しく鑑賞できた。坪谷小学校の生徒さんたちによる牧水短歌の朗詠がオペラに華を添えていた。



午後六時から会場をベルフオート日向に移して、第十三回「日本ほろよい学会 日向大会。アトラクションとしての子ども落語に大笑い。佐佐木幸綱日本ほろよい学会会長の「牧水と酒」のご講演を聴いた後、いよいよ宴会へ。日向の郷土料理に舌鼓を打ちつつ、美味しい日本酒を堪能した。



佐佐木幸綱日本ほろよい学会会長



小林理教日向市東郷町若山牧水顕彰会会長



黒木健二日向市長



田原大三東京牧水会会長



塩月眞若山牧水延岡顕彰会会長



林茂樹沼津牧水会理事長



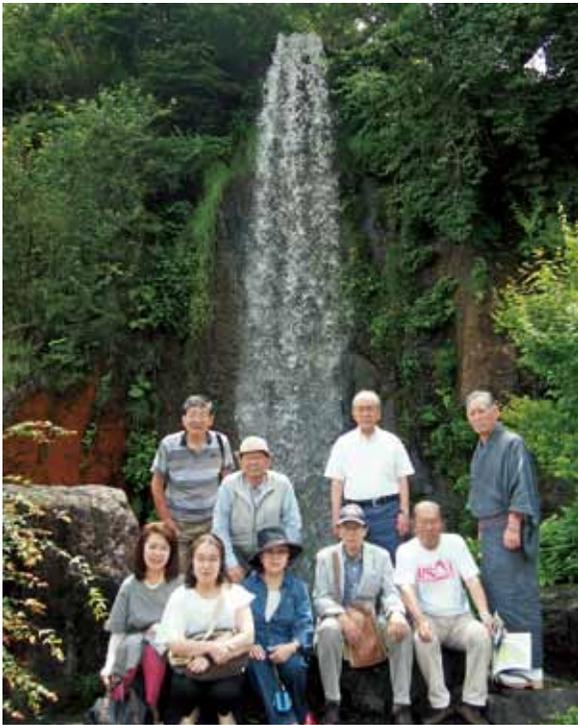
水地秀寿哲西牧水顕彰会会長（中央）と
吉備路文学館の遠藤堅三氏と奥富紀子氏



翌二十八日（日）は、主催者の企画「牧水のふるさとめぐり」のツアーバスの出発を見送って、三宅さんの運転する大型レンタカーで高千穂へ向かう。



これまでに何度か日向や延岡へお邪魔をし、そのついでに観光をしてきたが、春や秋のことが多く、夏に向かうこの季節なら、高千穂峡がいいのではないかとということになった。高千穂峡への途中のトイレ休憩を兼ねて高千穂観光物産館へ立ち寄る。ここには、高千穂から熊本へ抜ける予定だったものの工事が中止となった九州横断鉄道のトンネルを利用した焼酎の貯蔵庫がある。トンネルに入るとひんやりとした冷気が体を包む。焼酎を寝かせている樽が延々と続いている。トンネルの中



高千穂観光物産館入口の滝の前にて

は常時温度一七度前後湿度七〇％に保たれているらしい。感心してトンネルの奥へ向かったが、段々寒くなって慌てて外へ戻る。お昼は高千穂のそば処「天庵」。地元の野菜を天ぷらに揚げたものをいただきながらの蕎麦は美味しかった。高千穂は、ガイドの山口洋子さんの案内で、天岩戸神社、高千穂峡、高千穂神社をまわる。高千穂峡でのボートのりを期待していたが、前日の雨による河川の増水で、この日は欠航という残念なお知らせ。気を取り直して、

「高千穂あまてらす鉄道」に乗る。平成十七年の台風の影響で廃線になった旧高千穂鉄道の線路を、トラックを改造したスパーカーに乗って高千穂駅から高千穂鉄橋を往復する。カーブが走っているときは、風を切つて気持ちいいのだが、鉄橋のところで止まると陽射しが痛いくらいに射してくる。



天岩戸神社にて

夜は、宿泊先のホテル高千穂での楽しい晩餐会の後、高千穂神社境内の神楽殿で高千穂神楽を見学。国の重要無形民俗文化財に指定されている「高千穂の夜神楽」を、十一月中旬から翌年二月上旬のシーズン以外でも観ることがができるのだそうだ。三十三番ある夜神楽から代表的な「田力雄の舞」^{たぢからお}「佃女の舞」^{うずめ}「戸取の舞」^{とと}「御神体の舞」が演じられた。



高千穂あまてらす鉄道に乗る



高千穂神社にて





ホテル高千穂前で

二十九日（月）朝、レンタカーで出発し、清和文楽館を見学。人形浄瑠璃の一つで熊本県を代表する農村芸能の「清和文楽」公演が見られるそうだが、今回は残念ながら見られず、代わりに清和文楽を紹介しているビデオと人形の展示を見る。併設している清和物産館で、このあたりの特産品だというブルーベリーのジャムや野菜を購入。九州まで来て、野菜を買わなくてもと思うのだが、安さのあまりついつい買ってしまう。

途中、日本最大級の石造りアーチ水路橋で国の重要文化財の通潤橋を見学。通潤橋は、

水利に恵まれなかった白糸台地一帯に水を送るための水路橋として幕末に建設されたものだそう、当時の技術の高さに感心しながら、通潤橋史料館で説明を受ける。農作業による放水休止期間のため、残念ながら橋からの放水は見られなかったが、史料館の映像から迫力ある放水シーンを見て満足した。

昼食後、サントリー九州熊本工場を見学する。国内に四か所あるサントリーのビール工場の一つだそう、工場内を説明してもらった後、ビールの試飲。運転手を勤めてくれる三宅さんに申し訳なきを感じつつ、しっかりとジョッキ二杯飲み干す。



清和文楽館にて

熊本空港で、博多方面へ寄って行くという山下さんと別れて、空路羽田空港へ。すっかりおなじみとなった品川の「稲田屋」で晚餐。毎回のことながら、綿密で楽しい旅行工程を長澤理事に組んでいただき、また三宅さんには運転をしていただき、感謝の連続でした。

（事務局 大島葉子）



通潤橋をバックに

牧水生誕一三〇年記念事業

東京牧水会「百草園 牧水歌碑祭」に参加

「おはようございますー」「オハヨーー！」集合時間より少し早めではあったが牧水記念館からの乗車組全員が、バスに乗り込んだ。天気はくもり。夏の終りといってもまだまだ暑い。野外での活動はカンカン照りでない方がいいがたい。乗蓮寺山門前を経由し、沼津駅北口で最終乗車組を乗せて、沼津を出発。



平成二十七年八月二十三日（日）、東京日野市にある京王百草園で行われる東京牧水会主催「百草園 牧水歌碑祭 懇親会」に参加するためのバスツアーである。

参加者は、林茂樹理事長、青木朝子、浅井治、金子安夫、長澤靖夫の各理事、会員の有賀直子、栗田昭子、栗原進、剛谷明正、飛澤浩四郎、原悦子、真木美紗子、三宅芳則、山下数高、渡辺和彦、事務局からは大島葉子、伊藤早智子、近藤美智代、納谷瑞穂の総勢十九名（有賀さんは、東京から直接百草園へ来園された）だ。今年は牧水生誕百三十年記念、東京牧水会の創立二十五周年ということと事務局は四人で初めての参加となった。

東名高速に乗り九時には中井サービスエリアに到着。十五分ほどトイレ休憩をとり、渋滞もなく高速道路を早いペースで順調に走り、聖蹟桜ヶ丘駅前に着いたのが十時十七分。駅からタクシーで百草園入口まで行く「年配組」と百草園登り口までバスで行き、そこから歩いて登る七名とに分かれ、百草園正門で合流した。予定より早い到着で十時五十分

は全員が入園した。

園内には、昭和四十六年に建立された牧水歌碑のほかに、入口付近に昭和六十年に建てられた牧水歌碑があり、松尾芭蕉の句碑もある。梅が八百本ほどあって、毎年二月から三月には梅まつりが開かれるそうだ。歌碑祭の開会までには余裕があるので園内を散策しながら会場に向かった。石段を登ると歌碑が見えてきた。若山旅人先生設計の歌碑は洗練されたデザインで白い壁に黒御影石が三枚はめ込まれていて、それぞれの石に一首ずつ刻まれている。

山の雨ししばば軒の椎の樹にふり来てながき夜の灯かな
摘みてはすて摘みてはすてし野のはなの我等があとにとほく続きぬ
拾ひつるうす赤らみし梅の実に木の間ゆきつつ歯をあてにけり

田原大三東京牧水会会長が十一時すぎに到着した。式典が始まるのは十二時からだ。受付を済ませたがまだ時間がある。百草園の職員の方が園内を案内してくれた。式典後の懇親会が行われる松連庵。百草園は松連寺の庭園として造営されたが、明治初期に松連寺が廃寺となり、地元の商人が所有した後、現在

は京王電鉄に移管されたそうだ。茅葺屋根がみことだが、現在は茅葺のふき替え職人がなくなり、宮城県石巻の職人に依頼しているとのこと。そんな話も聞きながら高台を歩いたりして園内の説明が終ると十二時になった。

いよいよ式典が始まった。田原会長の挨拶につづき、参加者が全員、献花、献酒を行い、来賓の挨拶。林理事長が場を盛り上げた。

歌碑祭が滞りなく終了し、懇親会を行う松連庵に移動した。座席は参加したグループごとではなく、知らない者たちが交流を深めるようにと敢えて席を別々にしたとのこと。私の前も横も日向の方で牧水のことや焼酎の話など、楽しい時間を過ごすことができた。それぞれの席で話が盛り上がり、参加者の紹介をすることになった。東京、延岡、日向、哲西、群馬、各地区の方々につづき、沼津からの参加者がそれぞれ自己紹介をし、林理事長が東京牧水会の活動にふれ、田原会長が同会発行の『谿流』の文章の打込みから編集、校正に到るまで、お一人でやっておられ、充実した誌面を作り上げ、発行しつづけていることに感服し、このたびの歌碑祭の記念として『若山牧水の童謡』を編まれるなど、田原会長の牧水への熱い想いと努力があつてのことと感動して紹介した。

最後に、田原会長が「白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかれけれ」たぼたぼと樽に満ちたる酒は鳴るさびしき心うちつれて鳴る」の朗詠を披露し、感極まった挨拶をして閉会となった。

帰りは、百草園登り口からバスに乗り、有賀さんは聖蹟桜ヶ丘駅から京王線で帰宅され、私たちが沼津からの一行は、東名高速を一路沼津へ。三宅、原のご両名は沼津駅北口で下車。ほかの参加者は沼津リバーサイドホテルのバイキングデイナーで打ちあげの宴会をして、二十時三十分に解散した。

(事務局 伊藤早智子)



牧水生誕一三〇年記念事業

第十一回若山牧水顕彰全国大会

有賀直子

(本会会員)

幾山河こえさりゆかば寂しさのはてなむ
国ぞけふも旅ゆく

沼津千本浜公園にある歌碑に刻まれている
牧水の歌だ。

若山牧水顕彰全国大会が、この歌が詠まれた地・岡山県新見市で平成二十七年十一月七日・八日に開催され、沼津牧水会から林茂樹理事長、浅井治、金子安夫、長澤靖夫、河辺龍二郎の各理事、三宅芳則、鈴木玲子、長谷川良子、原悦子、有賀直子の各会員と事務局の大島葉子の十一名が参加した。

当初の計画では、寝台特急「サンライズ出雲」で出かける予定と聞き、春からワクワクして待っていた。しかし、この列車はいまや超人気で、切符がとれず、仕方なく十一月六日午後、新幹線で行くことになった。以前、寝台車「富士」で九州入りしたときは、サロンカーで夜通し宴会ができたのだが、今回は周囲を気にしつつ、銘酒と小魚の干物の匂いを車内に広めながら、岡山へ向かった。岡山駅で下車。新幹線から解放されて「さあ！飲

めるぞ」とホテル近くの居酒屋「庄屋」で夕食。吉備路文学館の遠藤堅三前館長と美入学芸員の奥富紀子さんも参加されて、にぎやかな前夜祭となった。

翌朝、特急列車で新見へ向った。山裾と川の間を縫って単線が続ぎ、ちらほら紅葉が見られ、身延線に似ている風景だった。

新見駅に着くと、市の関係者の方が出迎えてくださった。駅前広場には、大名行列が彫られた石板レリウがあり、この地は参勤交代のあった時代は交通の要衝であったと説明された。また、牧水の時代には、鉄道は総社（岡山市と新見市の間）迄しか来ていなかったともなると牧水は総社からは徒歩で二本松峠へ向かったのだ。私にとって道は目的



井倉洞の入り口にある、「井倉の滝」を背景に

に向う手段に過ぎないが、徒歩で旅をする道中とは、旅すること自体が目的であったのではないかと思つた。

今回の私の旅の目的は、牧水は何故この山道を通り、あの歌が生まれたのかを知って、肌で感じることである。

その謎解きの前に、三宅芳則氏の運転で、井倉洞を見学し、千屋牛ちやぎゅうの昼食をとつた。



石垣正夫 新見市長の挨拶

開かれた生誕百三十年「若山牧水顕彰全国大会」に出席した。

開会式は、新見混声合唱団によるオープニングセレモニー、深井正大会実行委員会会長、石垣正夫新見市長の挨拶があり、足羽憲治岡山県副知事、林光和新見市議会議長の祝辞につづいて、全国牧水顕彰会会長の黒木健二日向市長の代理としての副会長林茂樹沼津牧水会理事長、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長、塩月真全国牧水顕彰会副会長、北村秀秋日向市教育長の祝辞があった。

式典につづいて、小見山輝岡山県歌人協会会長の「基調報告」が行われた。



深井正 大会実行委員会会長(元哲西町町長)の挨拶

基調報告「山を越える牧水」は、若山牧水は大学時代、東京と日向の往き来に、日向から神戸まで船を使っていた。しかし明治四十二年二十二歳の牧水は、岡山から総社まで列車で、総社からは徒歩で山地に入り、高梁、新見で泊りながら哲西町の二本松峠に着いた。どの道を通ったかは、今ではわからない。山をいくつも越え、川を渡る険しいコースであった。恋人園田小枝子への思いに苦しみながら歩き続け、広島県との県境に当る二本松峠で、旅宿「熊谷屋」に宿泊した。この旅で「幾山河・・・」他二首を詠み、葉書にしたためて、友人に送った。

氏は、カールブツセの詩「山のあなた：」を挙げながら、牧水の旅のいきつく処は「死」か？彼の安んじて過せる所は故郷の尾鈴の山で、そこがはてなむ国ではないのか等と話され、興味深く聴いた。



小見山輝 岡山県歌人協会会長



長谷川權氏

つづいての基調講演「牧水はなぜ旅をしたか」は、俳人・長谷川權氏の講演であった。氏は、萩原朔太郎作「漂泊者の歌」「帰郷」西脇順三郎「旅人かへらず」谷川俊太郎「かなしみ」「二十億光年の孤独」さようなら」の詩をひもときながら語られた。そして最後に、牧水はいつも旅をして家を空けていたのに、喜志子はどう思っていたのだろうか。一般人は、生きるために「定住する」。喜志子は「あなたの飢えや活力がなくなるまで旅をしてください」と言っていたそうだ。そこで牧水は家族をかなしむ心、旅にいつてしまう自分をかなしむ心を抱きながら旅をしたと言われた。

シンポジウムは、伊藤一彦氏の司会、三人の若山牧水賞受賞の女流歌人たち(栗木京子、小島ゆかり、米川千嘉子)で行われた。各自の選んだ牧水の歌を基に、青年期、壮年期の旅について語られた。



シンポジウム「青春の旅 壮年の旅 牧水における旅の諸相」



若山牧水延岡顕彰会の皆さん

夕方から、会場を小ホールに移して、交流が賑やかに行われた。



小見山輝氏と吉備路文学館の遠藤堅三氏と奥富紀子氏



愛知牧水顕彰会の皆さん



哲西牧水顕彰会の皆さん



日向市東郷町若山牧水顕彰会の皆さん



沼津牧水会からの参加者

大会二日目は雨のため、会場を「牧水二本松公園」から「きらめき広場・哲西」に変更して、記念募集された短歌の表彰式が行われた。一首ずつに伊藤一彦選者の講評があった。私は新見市長賞の

若き日の君のやうなる人のゐる郵便局にて葉書を買ひぬが気に入った。

雨もあがり、いよいよ二本松峠へ向かった。二本松峠は岡山県と広島県の県境にあり、戦国時代は軍事、政治の要衝として重視された。今はその面影はなく、平成六年に再現された旅宿「熊谷屋」と小さな公園があった。熊谷屋へ入ってみた。牧水はこの宿に泊まって「幾山河」の歌を作ったのか、若き青年牧水の心の痛みを思った。

「幾山河」の歌碑の前で、塩月眞氏による牧水の歌が朗詠される中、榎本篁子館長から順に、献酒をしていった。生誕百三十年おめでとうございます。そして、ありがとうございます。の気持ちを含めてお酒を差し上げました。この歌碑のそばに、喜志子夫人と長男旅人氏の歌碑もあり、親子三人の歌碑が揃っている神聖な感じのする所であった。

牧水顕彰全国大会の行事が無事終了した。



「幾山河・・・」の歌碑の前で記念撮影



「けふもまた・・・」の歌碑の前で



各地の「牧水顕彰会」の代表者たち

明治四十年六月、牧水は広島を経て日向へ帰省した。このたび、私たちは、貸切バスで、峠を越え、広島県を通過して島根県へ向った。山の中のトンネルを幾つも幾つもくぐった。トンネルから出るとパツと目に飛び込んでくる紅葉に歓声をあげ、処々湧き上がってくる霧に明日の天気を思った。

安来市にある足立美術館に到着。広大な日本庭園、横山大観をメインとした日本画の作品、陶器をゆつくり鑑賞し、宿泊地の松江に向った。



に配慮した落ちついた町だった。内堀を巡る和船に乗り、松江城を一周した。

宍道湖につながる中海にある大根島に渡り、由志園で美味しい食事をいただいた。

大根島は大根ならぬ人参（高麗）を栽培加工している。この島には一年中牡丹を咲かせる温室、自由に散策できる見事な日本庭園があった。由志園で林君と浅井君がくつろぎ過ぎたので、ゲゲゲの鬼太郎の水木しげるロードに寄れず、車中から見物し、米子空港へ到着した。

米子空港から空路羽田空港へ。締めは品川の居酒屋「稲田屋」。なんとご丁寧なことで、松江の料理を堪能した。

いつまでも絶えることなく

友達でいよう

今日の日はさようなら

またあう日まで

今回の旅で「ツーリスト長澤」の売りは「ビジネスホテルに泊って、食事は豪華に！」のとおり。夕食は、宍道湖のほとりに提灯の灯った風情のある料理店で、日本海の味をいただいた。

最終日は、松江城に登り、小泉八雲旧居や武家屋敷を見学した。松江市は、松江城の国宝指定にちなみ、電柱を地中化するなど景観

第62回沼津牧水祭 短歌大会

十月四日(日)
午前十時三十分
沼津市立図書館
視聴覚ホール



十月四日(日)、爽やかに晴れた朝となった。青い秋空の一隅には、下弦の月が薄く白く影を浮かべているのが見える。沼津牧水祭短歌大会は、講師に「塔」短歌会の主宰である吉川宏志先生をお迎えして開催された。

会場の沼津市立図書館視聴覚ホールには、牧水ファンや吉川先生のファンが集まり、外の天気同様おだやかな雰囲気があふれる中、予定どおり十時三十分の開会した。

まず初めに、吉川先生が牧水と同じ宮崎県の東郷町の生まれであり、若い時から短歌を詠まれるなど、牧水との共通点が多くあるとの紹介があった後、吉川先生が登壇された。

午前中は、吉川先生による「(自己)」を上げた歌人「若山牧水」と題する講演があり、牧水や他の作者の短歌を引用しながら、牧水は、自分を周りの風景や環境と切り離さずに新しい視点で詠ったと述べ、牧水短歌の特徴を知ることができた。また、牧水の「人間の本质を表現として切り開いた」功績も知ることが出来て、大変有意義な時間となった。

そして、有名な短歌ばかりを読むのではなく、いい歌を自分で発見することが大事であるとの言葉には、深く頷かされた。

午後は、本大会に出詠された百二十三首の短歌作品の内、当日出席した七十四名の作品の評が吉川先生によって行われた。一首一首丁寧の評をいただいたが、印象に残った言葉としては、「一首の中に具体を詠い込むことがよい」「米寿や卒寿などの決まり文句は、使わない方がよい」「リズムが大切」「説明的になり過ぎず、読者に想像させる」「社会詠の場合、自分とどう関わるかが大事」など、作歌する際のヒントを沢山いただいた。

以下、講師選の「牧水賞」三首と出詠者による互選上位七首を紹介する。

（本会員 永久保英敏）
沼津市 佐藤なほ子
牧水賞一席

「もう歩けないからこの靴履いてね。」姉の続きを今日も歩めり

牧水賞二席 鹿嶋市 栗崎耕三

三歳は「平和の礎」へ背のびする曾祖父の名に指をはわせて

牧水賞三席 静岡市 大原葉子

水流に対ふ釣り人七月のひかりはひとり
ひとりを隔つ

市長賞 磐田市 伊藤正則

がん病みて妻との歩幅合いて来ぬ里の祭の人混みをゆく

市議会議長賞 沼津市 宮本千鶴子

里帰りせし娘のすこし瘦せたるを寡黙の夫は寝しなに言ひぬ

教育長賞 御殿場市 勝又正子

遠き日に愛を誓いし君なれど老老介護の日々は切なき

沼津商工会議所会頭賞 藤枝市 杉本弘子

アメンボの水面をすべる軽やかさ背負ひたる荷をもう下ろしたし

沼津観光協会会長賞 裾野市 高梨照美

グローブで口許かくし密やかに捕手と投手の作戦の夏

沼津朝日新聞社賞 静岡市 大原葉子

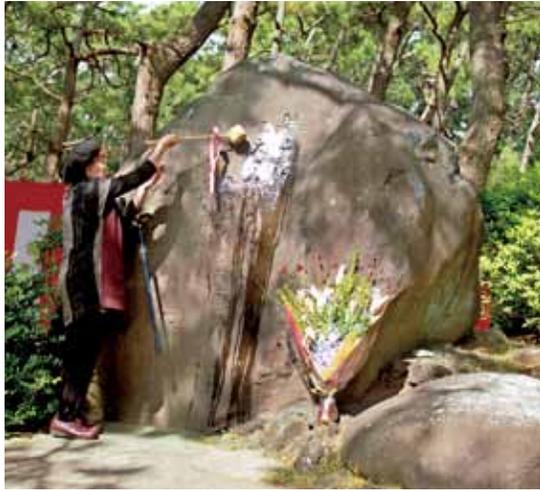
水流に対ふ釣り人七月のひかりはひとり
ひとりを隔つ

マルサン書店賞 沼津市 山田純子

どれほどの海面を越えけむ飛魚のひれ透きとほり少し裂けたり

第62回 沼津牧水祭
碑前祭・芝酒盛

十月十八日(日)午前十一時



ガンバレといつも応援送りつついつかは
出たいあのピッチへと 田丸朝一
迎え火の煙の先に思い出すやさしき祖母
のありし日の顔 青島 翼
くつのひもしつかり結んでいざ試合日頃
の努力がためされる日だ 小野馨大
この日表彰された中学生短歌コンクール特選
十首のうちの三首である。

旅・酒・ロマン・そして夢を追った歌人牧水。この日全国各地より数百人の牧水ファンがここ沼津の千本浜公園に立つ牧水歌碑第一号「幾山河」の前に集う。

林茂樹理事長の開会の挨拶、工藤達朗教育長の祝辞、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長の献花・献酒・挨拶、花柳寿宗師の舞、牧水短歌の合唱を聴いた後、植松恭一沼津市議会副議長の乾杯の音頭で、待望の芝酒盛の開宴となった。

高田紹代氏が朗々と歌う牧水「酒の歌」。
それほどにうまさかと人のとひたらばな
んと答へむこの酒の味
われとわが悩める魂の黒髪を撫ぶるとこ
とく酒を飲むなり
人の世にたのしみ多し然れども酒なしに
してなにのたのしみ
かんがへて飲みはじめたる一合の二合の
酒の夏のゆふぐれ

岳心流沼津愛吟国風会による詩吟、ぬまつ観光ボランティアガイドによる合唱、ハーモニカでボランティア活動を行っている沼津ハーモニカクラブの合奏等に酔いしれる。「日本の歌・牧水の歌」をみんなで歌う。

ドンドンドン・ドンドンドン、勇壮な裾野五竜太鼓に体をゆさぶられる。芸人寄合衆

「ようそろ」の五竜太鼓には負けていない太鼓。火花が散ろうかというものか。

牧水の歌は日本人のだれしもの心の底流にあるものを詠っているとされる。沢山の人が短歌をはじめ芸術の世界に昇華させたいという夢を持っている。それがかずかずの歌人や文筆家を生み出した素地であろう。

こんなことを思いながら、ふるまわれる酒に酔いしれる。これぞ沼津牧水祭碑前祭。牧水の歌の世界に吸い込まれてゆく。

白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも
染まずただよふ

しらたまの歯にしみとほる秋の夜の酒は
しづかに飲むべかりけり
かたはらに秋ぐさの花かたるらくほろび
しものはなつかしきかな

特に短歌を研究したわけでもなく、調べが
いいので自然に人から人に口伝的に伝わって
きた牧水短歌。調べだけでなく歌の奥深さ。
何とも言えない牧水短歌の魅力が永年人々の
心の中に染み付いているのだ。歌碑の多き日
本一。その理由も分かるというものだ。

サックスの飛び入り出演の「夜霧よ今夜も
ありがとう」で沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛は
お開きとなった。see you again.

(本会会員 渡辺和彦)

第28回
雛の歌会

三月六日(日)
午後一時三十分
沼津市若山牧水
記念館ラウンジ



春日特有の霞空のもと松籟に誘われる様に

第二十八回「雛の歌会」が開催された。

講師に「かばん」同人の東直子先生をお迎えした。東先生の若々しく清楚な装いと飾らないお人柄が参加者を惹きつけていった。

東先生は、「草かんむりの訪問者」三十首で第七回歌壇賞を受賞(平成八年)。つづいて歌集『春原さんのリコーダー』『青卵』を発表。その後、小説、エッセイ、詩と多方面で活躍されるマルチな才能の持ち主であられる。

出詠数七十一首、当日の参加者四十六名と程よい集まりの中、歌会は次第に熱気に包まれていった。

まず東先生の選ばれた十首を紹介する。

人去りてしづけき杜の青葉かげながくあ
ゆみて見るべくはみつ 小山弘子

下句、人生の比喩的なことばで心が満たされ
てる佳い作品である。

野ぼたんの紫紺は秋の陽を吸ひて母の
コートの色に近づく 佐藤なほ子

「野ぼたんの紫紺」は美しい表現。下句にし
みじみとした物語を秘め惹かれる。

うた詠むはわがレクイエムひねもすをひ
とり綾取り飽きずにすくふ 杉本弘子

時間の中のささやかな喜びと「綾取り」の着
眼点が良い。

道端のヤゾウコゾウを蹴散らせば《五時
までの鬱》あとかたもなし 前田鐵江

一首を通して作者の気分がよく出ている歌。
九年間の話題に触れず母と娘が昨日の続

きのごと寿司を食ふ 岸 浩子

「九年間」は空白の時間であり大きな時間を
表して具体性がある。

雪雲を曳いて迷へるかもめ来るまこと沼
津は海にひらく町 福崎享子

「雪雲を曳いて迷へる」この表現はうまい。
下句、実感として伝わる。

冬ざれの畑に列なす大根の抜きん出たる
一本の白 望月千カ

大根の白さが映えて存在感を示している。

まんまるの月を見上げて「炭坑節」口ず
さみつつ澄みてゆくなり 杉山治子

不思議なギャップの歌だが、それがいい。下
句の「澄みてゆくなり」は自分自身が澄みて
いくのかも。

外は雪いついつ眠る深海魚 サンシャイ
ンビル青光りして 高木絢子

水族館を観ながら実は内側の人間を言ってる
深い歌。

下校の子の帽子うばいし青嵐さけぶみん
なの声も持ち去る 一杉智子

全体に勢いがある歌。特に結句がうまい。
その他の出詠歌に、東先生が指摘された注
意点を紹介する。

言いすぎると歌に深味がなくなる。

一首の中の登場人物が分かりにくい歌。
作者の立ち位置の見えない歌。

文章的でない言葉を磨く。
漢字が多いと重くなるので助詞を入れた
り、仮名にしたりと工夫する。

東先生の発する言葉はどれも大切で、一
字一句聴きもらさず心に置きたいと感じた。

色々勉強させて頂き有意義な時間であった。
図書館で借りた東先生の若き日の歌集や著作

をゆつくりと味わいたいと思っている。

(本会会員 三浦征江)

文 化 講 座

初心者のための短歌講座

日 時 平成27年4月～平成28年3月
毎 月 第2土曜日 午前(全11回)
講 師 須永秀生氏



牧水記念館短歌会

日 時 平成27年4月～平成28年3月
毎 月 第2土曜日 午後(全11回)
講 師 須永秀生氏



牧水記念館俳句会

日 時 平成27年4月～平成28年3月 隔月第4日曜日 午後(全6回)
講 師 榎本好宏氏



書 道 講 座

日 時 平成27年4月～平成28年3月 毎月第3火曜日 午後(全10回)
講 師 成田真洞氏



サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジ

古楽コンサートシリーズ32
「イタリア歌曲の変遷 初期バロックから後期バロック」
日 時：平成27年5月10日(日) 午後6時45分
出 演：服部礼子 (ソプラノ)
杉山佳代 (チェンバロ)
来 場 者：113人



古楽コンサートシリーズ33
「フルート、オーボエ、チェロ、チェンバロによる
バロックの夕べ」
日 時：平成28年1月31日(日) 午後6時45分
出 演：鈴木啓美 (オーボエ、オーボエ・ダモアレ)
鈴木麻紗子 (チェロ)
杉山佳代 (チェンバロ)
尾崎美穂 (フルート)
畑田真世 (フルート)
来 場 者：100人

山内達哉プレゼンツバレンタインライブ2016
日 時：平成28年2月13日(土) 午後6時30分
出 演：山内達哉 (ヴァイオリン)
溝渕俊介 (ヴォーカル)
金森 大 (ピアノ)
来 場 者：79人



カルテット プラチナム 弦楽四重奏
日 時：平成28年3月26日(土) 午後6時
出 演：沼田園子 (ヴァイオリン)
野口千代光 (ヴァイオリン)
大野かおる (ヴィオラ)
菊地知也 (チェロ)
来 場 者：60人

平成 27 年度 事業 報告

総会 (第29回総会)	平成27年5月15日 (金) 午後 6 時～7 時	会報 第28号	平成27年 5月15日発行
理事会 第1回 (通算149回)	平成27年4月14日 (火) 午後 6 時～7 時15分	館報 第55号	平成27年 9月 1日発行
第2回 (通算150回)	平成27年8月11日 (火) 午後 6 時～6 時35分	第56号	平成28年 3月 1日発行
第3回 (通算151回)	平成27年9月22日 (火) 午後 5 時～6 時30分		
第4回 (通算152回)	平成27年12月4日 (金) 午後 6 時～7 時		
第5回 (通算153回)	平成28年3月11日 (金) 午後 6 時～7 時15分		

1 調査研究事業

- 若山牧水生誕130年記念事業「牧水を旅する」
(主催:日向市、日向市教育委員会、日向市東郷町若山牧水顕彰会)
日時:平成27年6月27日(土)午後2時
会場:宮崎県日向市 日向市中央公民館ホール
第13回「日本ほろよい学会」日向大会
(主催:日向市東郷町若山牧水顕彰会、若山牧水延岡顕彰会)
共催:日本ほろよい学会)
日時:平成27年6月27日(土)午後6時
会場:ホテルベルフオート日向
参加者:林茂樹、浅井治、金子安夫、長澤靖夫、鈴木玲子、原悦子、三宅芳則、山下敦高、大島葉子
 - 第16回「百草園牧水歌碑祭」へ参加(主催:東京牧水会)
日時:平成27年8月23日(日)正午
会場:東京都日野市百草 京王百草園牧水歌碑前
参加者:林茂樹、青木朝子、浅井治、金子安夫、長澤靖夫、有賀直子、栗田昭子、栗原進、棚谷明正、飛澤浩四郎、原悦子、眞木美紗子、三宅芳則、山下敦高、渡辺和彦、大島葉子、伊藤早智子、近藤美智代、納谷瑞穂
 - 第65回 日向市の「牧水祭」へ祝電(主催:宮崎県日向市)
日時:平成27年9月17日(木)午前9時30分
会場:日向市東郷町坪谷 若山牧水生家裏牧水歌碑前及び牧水公園「ふるさとの家」
 - 第59回 暮坂峠「牧水まつり」へ祝電(主催:牧水詩碑保存会)
日時:平成27年10月20日(火)午前11時
会場:群馬県吾妻郡中之条町 暮坂峠
 - 若山牧水生誕130年記念事業「第11回若山牧水顕彰全国大会」岡山県新見大会
(主催:第11回若山牧水顕彰全国大会実行委員会)
日時:平成27年11月7日(土)～11月8日(日)
会場:岡山市新見市 まなぶい場にいみ 大ホール
新見市哲西町牧水二本松公園
参加者:林茂樹、浅井治、金子安夫、河辺龍二郎、長澤靖夫、有賀直子、鈴木玲子、長谷川良子、原悦子、三宅芳則、大島葉子
 - 第82回 延岡市の「牧水歌碑祭」へ祝電(主催:若山牧水延岡顕彰会)
日時:平成28年3月20日(日)正午
会場:延岡市 城山公園内 牧水歌碑広場
- ## 2 第62回 沼津牧水祭の運営
- 短歌大会
日時:平成27年10月4日(日)午前10時30分～午後3時30分
会場:沼津市立図書館 視聴覚ホール
講師:吉川 宏志氏(「塔短歌会」主宰)
応募短歌:123首
参加者:80人
 - 碑前祭・芝酒盛
日時:平成27年10月18日(日)午前11時～午後2時30分
会場:千本浜公園 牧水歌碑前
参加者:480人
- ## 3 特別企画展
- 牧水生誕130年記念 特別企画展
「牧水をかく～榎倉香都と成田真洞～」
日時:平成27年9月19日(土)～11月29日(日)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:1,501人
- ## 4 文学講演会及び文学講座等の開催
- 牧水生誕130年記念 特別企画展「牧水をかく～榎倉香都と成田真洞～」オープニングイベント 鼎談「牧水のうた」
日時:平成27年9月19日(土)午前10時30分～12時
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師:榎倉香都氏、成田真洞氏、榎本 望子 館長
参加者:114人
 - 文化講座「牧水の書の魅力」
日時:平成27年10月11日(日)午後1時30分～3時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:成田真洞氏
参加者:52人
 - ワークショップ「牧水の特徴をとらえて書いてみよう」
日時:平成27年11月15日(日)午後1時30分～3時30分
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:成田真洞氏
参加者:43人
 - 第28回「雛の歌会」
日時:平成28年3月6日(日)午後1時30分～4時
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師:東 直子氏(「かばん」同人)
応募短歌:71首
参加者:46人
- 初心者のための短歌講座
日時:平成27年4月～平成28年3月
毎月第2土曜日 午前10時～12時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:須永秀生氏
参加者:11回開催 延べ230人
 - 牧水記念館短歌会
日時:平成27年4月～平成28年3月
毎月第2土曜日 午後1時30分～3時30分
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:須永秀生氏
参加者:11回開催 延べ132人
 - 牧水記念館俳句会
日時:平成27年4月～平成28年3月
毎月第4日曜日 午後2時～4時30分
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:榎本好宏氏
参加者:6回開催 延べ86人
 - 書道講座
日時:平成27年4月～平成28年3月
毎月第3火曜日 午後1時～3時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:成田真洞氏
参加者:10回開催 延べ86人
 - 第26回「中学生短歌コンクール」募集・表彰
募集期間:平成27年4月28日(火)～7月31日(金)
応募短歌:1,712首(14校1,712人)
入選短歌:55首
選者:青木朝子、須永秀生、曾根耕一、高橋公子
表彰:平成27年10月18日(日)「沼津牧水祭・碑前祭」にて
 - 音楽イベント
第1回 古楽コンサートシリーズ 32
「イタリヤ歌曲の変遷 初期バロックから後期バロック」
日時:平成27年5月10日(日)午後6時45分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:服部礼子(ソプラノ)、杉山佳代(チェンバロ)
来場者:113人
第2回 古楽コンサートシリーズ 33「フルート、オーボエ、チェロ、チェンバロによるバロックの夕べ」
日時:平成28年1月31日(日)午後6時45分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:鈴木啓英(オーボエ、オーボエ・ダモーレ)、鈴木麻紗子(チェロ)、杉山佳代(チェンバロ)、尾崎美穂(フルート)、畑田真世(フルート)
来場者:100人
第3回 山内達哉プレゼンツヴァレンタインライブ 2016
日時:平成28年2月13日(土)午後6時30分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:山内達哉(ヴァイオリン)、溝淵俊介(ヴォーカル)、金森大(ピアノ)
来場者:79人
第4回 カルテット ブラチナム 弦楽四重奏
日時:平成28年3月26日(土)午後6時
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:沼田園子(ヴァイオリン)、野口千代光(ヴァイオリン)、大野かおる(ヴィオラ)、菊地知也(チェロ)
来場者:60人
- ## 5 企画展示
- 平成27年度「書道講座」受講者作品展示
期 日:平成28年3月15日(火)～3月25日(金)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:181人
- ## 6 その他の事業
- 協賛事業
第86期 将棋「根拠」第3局 羽生善治棋聖 対 豊島将之七段
(主催:産経新聞社、日本将棋連盟、日本将棋連盟沼津支部、第86期 将棋「根拠」第3局開催実行委員会)
(後援:沼津市、沼津市教育委員会、沼津倶楽部、プロジェクトN、本会)
対 局:平成27年7月4日(土)午前9時 沼津倶楽部
前夜祭:平成27年7月3日(金)午後6時 沼津リバーサイドホテル
こども将棋大会:平成27年6月21日(日)午前10時
シニア将棋大会:平成27年6月21日(日)午前10時
指導将棋会:平成27年7月4日(土)午後10時
大盤解説会:平成27年7月4日(土)午後2時
会場は、いずれも沼津市若山牧水記念館
参加者数:前夜祭 340人、こども将棋大会 56人、シニア将棋大会 14人、指導将棋会 28人、大盤解説会 203人

公益社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。
- 第二条 この法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の二に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学の普及を図り、もつて、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会、文学講座等の開催
- (4) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人に次の会員を置く。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、会員総会の決議をもつて推薦されたもの
- 第六条 前項の会員をもつて、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- この法人の会員にならうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもつて会員となるものとする。
- この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になつた時及び毎年、会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。
- 第七条
- ### 公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程
- 第一条 この規程は、公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、入会金及び会費について定めることを目的とする。
- 第二条 定款第七条第一項に規定する入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 第三条 定款第七条第一項に規定する会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 五、〇〇〇円（年額）
- (2) 賛助会員 一〇、〇〇〇円以上（年額）

（理事）長 林 茂樹（副理事長）杉山 光男 須永 英男
（理）事 浅井 治 保坂 輝夫 田中 和男 金子 安夫 四方 一弥
八十濱俊一 長澤 靖夫 青木 朝子 河辺龍二郎 杉山 重義
永久保英敏
（監）事 鈴木 弘行 栗原 進
（事務局）大島 葉子 伊藤早智子 近藤美智代 納谷 瑞穂

編集後記

熊本県を中心に過去に例のないほどの大きな地震が発生し、余震がつづいており、甚大な被害が生じていると報じられています。被災した皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

平成一七年に延岡の顕彰会の方たちと立ち寄つた熊本城にも被害が出たことに驚き、九州各地の方たちが今現在も落ち着かない日々を過ごしておられることに心が痛みます。

さて、沼津市による津波避難用「築山」造成計画について、昨年の会報で詳しくお伝えしましたが、その後、沼津市は、私たちの反対を押し切り、「松を一本も伐らない」から、と、昨年一〇月造成に着手しました。本年四月、「築山」の供用が始まりました。昨年五月以降の経緯を、新聞記事を掲載しつつお伝えいたしました。牧水の守つた「千本松原」を今後も見守りつづけていきたいと思っております。

牧水生誕一三〇年記念事業・特別企画展「牧水をかくく榎倉香野と成田真洞」の模様を振り返り、成田真洞先生に「牧水の書への視点」と題する玉稿を寄せていただきました。

日向市で開催された「牧水を旅する」「日本ほろよい学会」日向大会、東京牧水会主催の「百草園 牧水歌碑祭」、新見市で開催された「若山牧水顕彰全国大会」に本会からも参加しました。日向市と東京への参加記録を事務局が記述し、新見市への「紀行文」を有賀直子会員が寄稿してくださいました。

「沼津牧水祭・短歌大会」の講師に吉川宏志先生を、「離の歌会」の講師には東直子先生をお迎えしました。「沼津牧水祭・碑前祭」は、好天に恵まれ、盛大に開催できました。

「短歌講座・短歌会」「俳句会」「書道講座」及び「サロン音楽の夕べ」も好評でした。

将棋「棋聖戦」第三局が沼津倶楽部で開催され、大盤解説会ほかのイベントが当記念館で開催され、前夜祭にも大勢の参加者がありました。本年も七月二日（土）に開催されます。

本年度も変わらぬご支援をお願い申し上げます。
なお、本号からカラー印刷にしました。ご覧ください。